

# 仲間つていいもんだ

## 学び合い授業が効果

里公小

三和区の里公小（春日良樹校長、児童百八十八人）は、二年前から児童

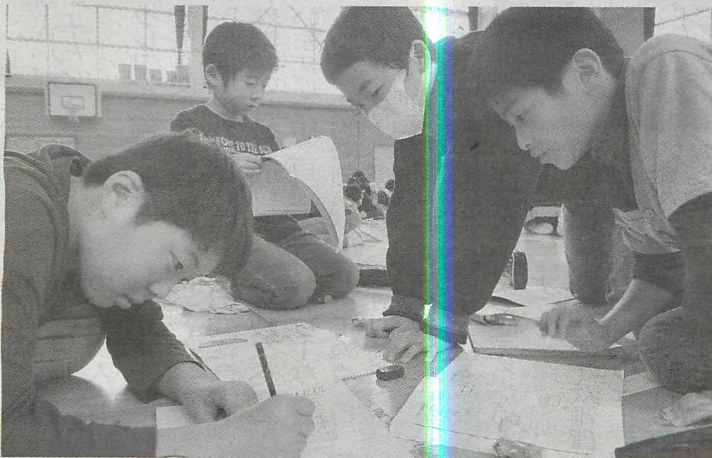
の学力と対人適応力の向上を目指し「学び合い授業」を取り入れている。授業の運営をサポートする上越教育大の西川純教授は「学力が上がり、子どもたちが『仲間がいるのはいいもんだ』と思う

ようになる」と話している。

十月二十六日は全校児童が体育館に集まり、教員から各学年ごとに算数の課題を与えられた。三十分の制限時間で、グループをつくって全員が課題を解決することが到達点。教員は課題の設定と評価に終始し、グループ組成や指導にかかわらない。児童は飛び回ったり寝転がったりふざけているようにも見えたが、終わってみると七割以上が課題を解決していた。また活動中の児童は課題解決に集中しており、全く違うことをしている者は一人もいなかった。

西川教授は「助け合うのは人の本能。授業は助け合う環境をつくる契

機。現に児童はグループをつくり、課題を解決して見せた」と話す。加えて算数は教員が結果評価をしやすい点、同授業の実践で集団の学力が上がるとともに、人間関係をうまく処理する力も養うことができる」と述べた。



3—10人ほどのグループで、各学年ごとに与えられた課題を解決する

▽段違い平行棒 ①石田美樹②秋本里菜③渡邊智尋

▽平均台 ①石田美樹②秋本里菜③沢畑里沙

▽ゆか ①秋本里菜②渡邊智尋③沢畑里沙